

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000184		
法人名	株式会社 尚進		
事業所名	グループホーム ふきのとう		
所在地	北海道小樽市桜1丁目27番53号		
自己評価作成日	平成23年8月31日	評価結果市町村受理日	平成23年11月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者の方が楽しく生活できるよう、外出行事等にも力を入れ、居心地の良い明るい環境を提供します。</p>
--

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172000184&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年10月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>小高い丘の上であり、周りは静かな住宅地、目の前に広い公園があり、はるか向こうには小樽市街や石狩湾が眺望できる風光明媚な土地に位置し、居心地のよい明るい環境が提供されている。利用者が楽しく生活できるよう季節ごとに外出行事が組まれ、多目的ホールを利用してのボランティアや職員による各種イベントが催されている。職員の提案によって近くの傾斜地に畑や花壇が開設され、利用者に楽しさを提供している。事業所として以前から掲げられている理念の他に、ユニットごとに職員自らが共同で長い時間をかけて検討し独自の理念を作り上げたことによって職員の士気が高められ、優れたチームワークができています。運営者は職員の意見に良く耳を傾け尊重する姿勢を取っているため、相互信頼と就労条件の安定によって離職が少なく、安心できる労働環境によって質の高い介護が生み出されている。地域との付き合いは、町内会に加入しての各種行事参加、事業所主催の夏祭りへの地域住民招待、近くの小学校の学習発表会への参加、中学生が来訪しての雪あかりキャンドル作り、など多彩な交流を繰り広げている。医療機関受診はどの利用者も事業所の職員が同行しており、家族の負担をなくし、臨機応変の受診を可能にしていると同時に医療機関との緊密な連携を可能にしている。</p>

. サービスの成果に関する項目(第1ユニット アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	
	1. ほぼ全ての利用者の		1. ほぼ全ての家族と	
	2. 利用者の2/3くらい		2. 家族の2/3くらい	
	3. 利用者の1/3くらい		3. 家族の1/3くらい	
	4. ほとんど掴んでいない		4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
	1. 毎日ある		1. ほぼ毎日のように	
	2. 数日に1回程度ある		2. 数日に1回程度	
	3. たまにある		3. たまに	
	4. ほとんどない		4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
	1. ほぼ全ての利用者が		1. 大いに増えている	
	2. 利用者の2/3くらい		2. 少しずつ増えている	
	3. 利用者の1/3くらい		3. あまり増えていない	
	4. ほとんどいない		4. 全くない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
	1. ほぼ全ての利用者が		1. ほぼ全ての職員が	
	2. 利用者の2/3くらい		2. 職員の2/3くらい	
	3. 利用者の1/3くらい		3. 職員の1/3くらい	
	4. ほとんどいない		4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
	1. ほぼ全ての利用者が		1. ほぼ全ての利用者が	
	2. 利用者の2/3くらい		2. 利用者の2/3くらい	
	3. 利用者の1/3くらい		3. 利用者の1/3くらい	
	4. ほとんどいない		4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
	1. ほぼ全ての利用者が		1. ほぼ全ての家族等が	
	2. 利用者の2/3くらい		2. 家族等の2/3くらい	
	3. 利用者の1/3くらい		3. 家族等の1/3くらい	
	4. ほとんどいない		4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			
	1. ほぼ全ての利用者が			
	2. 利用者の2/3くらい			
	3. 利用者の1/3くらい			
	4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が理念を理解し、共有してケアにつなげている。また、ユニット独自の理念も作成中です。	事業所の理念として、「ゆっくり」「楽しく」「一緒に」をモットーとして掲げており、いろいろな場面で理念に関連した話し合いが行われて職員の間に行き渡っている。さらに最近、職員自身が長い時間をかけて検討した末、ユニットごとの独自の理念を作り上げて実践している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	毎年夏には、ふきのとう夏祭りを開催し、地域の方々を招待し、交流を図っている。地域の小中学校の催しに招待され、参加させて頂いている。	町内会に加入して敬老会、健康セミナーなど各種行事や活動に参加し、事業所主催の夏祭りのチラシを配布するなどして地域住民を招待し、近くの小学校の学習発表会に参加し、また中学生が来訪して雪あかりのキャンドルを作ってもらうなど、多彩な交流が繰り広げられている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭りや消防避難訓練などに地域の方々にチラシを配付し参加して頂いている。その際は、認知症の方への支援のあり方について知って頂いている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を開催し、民生委員、ご家族、地域包括支援センターの方に出席して頂いている。イベントやふきのとうの現状報告等を行い、ご意見やご指導を頂いている。	2ヶ月に1回開催し、町内会長、民生委員、地域包括支援センター、家族などの参加で事業所の活動報告や避難訓練対策などについて話し合っている。参加者は概して協力的で、活発に意見が出されている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、地域包括支援センターの方に参加して頂いている。また、市の担当者の方に困ったことや不明な点があれば相談している。	生活保護や障害など利用者の様々な事情に応じた行政との相談が多く、市の担当者との関係を大事にしており、気軽に相談できる関係を作っている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に安全を意識しながら、自由な暮らしを支えられるよう努めている。職員全員で身体拘束をしないケアを理解しており、現在も身体拘束は行われていない。	年に1回はこのテーマについての外部研修を受け、他の職員に伝達している。マニュアルが整備されており、これをもとに適宜内部の勉強会を催して職員の意識を高めている。危険を予防するための手段が拘束に抵触する恐れなどについて、その都度職員間で話し合いながら対処している。日中は玄関のカギを開錠している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修にて、不適切なケアが行われていないか、確認し合い、利用者の方々の尊厳を守るよう努めている。		

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、成年後見制度についての研修会に参加する機会が少なかった為、今後は、内部研修などでも職員一同が学び活用できるよう努めていきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、本人や家族と十分な情報交換を行い、説明をしながら質問等を受け同意を得ている。やむを得ず契約解除に至る場合も、ご家族と十分な話し合いをして納得を得た上でやっている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談、苦情の受付窓口を設置している。意見や苦情があった場合は、運営推進会議で報告し、各ユニットではミーティング等で取り上げ改善に努めている。ご家族には意見や要望を言いやすい雰囲気作りに努めている。	できるだけ家族と連絡を取って気軽に話せる関係を築いている。ファックスで連絡していたことも電話に切り替えることによって意思疎通がスムーズになった。事業所へ任せきりになりがちな家族にも誠意を持って接することによって、率直な要望を引き出すよう努力している。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットのミーティングでは、事業所所長にも参加して頂き、意見を述べたり助言をもらっている。また、年に数回懇親会を開催し、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	運営者は職員の意見を尊重する基本姿勢を取っており、毎月のミーティングに参加して真摯に耳を傾け、多くの意見を取り上げている。時には懇親会に社長が参加してざっくばらんな意見交換もしている。畑や花壇の設営もこのようにして実現した。職員の信頼も厚い。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のモチベーションが上がるよう、資格所得での手当及び火元責任者や衛生管理者の役職手当等、個々のやる気を向上につなげている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部・内部の研修の機会を確保し、希望する研修に参加できるよう配慮している。また、職員の力量に合わせた外部研修(実践者研修等)の参加の機会を確保し、勉強する機会を作っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小樽市グループホーム協議会で主催している相互訪問研修で、月に1度、他グループホームと相互に訪問し合い、知識や技術の習得、意見交換し、交流を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居に際して、本人やご家族と情報交換を行い、安心して生活して頂ける様に努力している。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族の不安や困ったことへの相談や要望等を聞き入れながら、良い関係作りに努めている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居前に、本人、ご家族が何を必要としているのかをアセスメントして、介護計画を作成している。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>職員と一緒に出来ることをお手伝いして頂いたり、一緒に物作りなどを行い、楽しみを共有し共に生活している者同士としての信頼関係を築けるよう努めている。</p>		
19		<p>本人を共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>毎月発行しているふきのとう通信で普段の様子を知らせたり、ご家族来訪時や電話にて近況を説明している。又、主治医からの説明等がある際は、ご家族と同席させて頂くなど、共に本人を支えていく関係作りに努めている。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>入居前に通院していた病院に、入居後も通院できるよう、支援している。ご家族や知人から送られてきた手紙などを一緒に見て、喜びを共感しながら、馴染みの関係が継続できるよう支援している。</p>	<p>友人やかつての近所の人、以前下宿を営んでいた時の元学生など来訪は頻繁で、職員も歓迎して馴染みの関係継続に努めている。信仰の集まりや墓参り、法事への参加にも家族とともに協力している。ドライブで出かけた時は元の家など懐かしい場所へ遠回りすることもある。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>入居者さんの性格や気持ちを把握し、気の合う方が同士が過ごせる場所を提供したり、日々の日常生活が楽しく感じられるよう、職員が調整役となり支援に努めている。</p>		

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もサービス利用中に培った関係を大切に、ご家族の相談に応じるなど継続的支援に努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活やコミュニケーションなどで、希望を聞き入れ意向を把握するよう、努力している。	表現の難しい利用者でも本人の身になって考えることに努め、体調なども念頭に置きながら表情から気持ちを読み取っている。対応の難しい利用者には心を開いた職員を介して意向把握に努めるなどの工夫をしている。	本人の希望・意向の把握の手掛かりになる過去経歴の情報は豊富に持っているが、更に記録してその蓄積と共有を図ることを期待したい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の協力や本人からのお話などで、これまでの暮らし方、今後の希望などを把握するよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の心身状態、身体状況を把握し、入居者個々の持っている力に合わせたお手伝いをしている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度、カンファレンスを開き、モニタリングを行い、その時の状況に応じた計画を作成している。	計画は各ユニットの計画作成担当者が中心になって、各職員に用紙を配ってアセスメントを行い、モニタリングも全職員が参加している。作成された計画はミーティングで確認した上で仕上げていく。診療情報や医師の指示を取り入れ、家族にはあらかじめ意向を確認している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	水分摂取・食事量・バイタル・排泄状態等の様子を記録し、職員間で情報を共有しながら日々のケアに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院、外出への介助、お食事ツアーなどを計画し支援している。散歩へ出掛けたり、個々の意向を聞き入れて支援している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり、目の前にある公園での地域の子供たちとの交流を大切にしている。近くの中学校の文化祭等にも参加させて頂くなど、交流を図っている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居する時点で、ご本人、ご家族の希望等相談を受け、入居以前からの掛かり付け医、又は新たな医療機関との関わりを支援している。	かかりつけ医は家族の意向に沿ってできるだけ従来の医療機関を継続して利用するよう努めている。受診の際は全て職員が同行するので、臨機即応の受診や医療機関との情報交換はスムーズに行われている。	

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護職員の配置はないが、連携病院の看護師には、身体状態に変化が見られた時など相談し、医師からの指示を仰ぐなど、適切な受診を受けられるよう支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、ご家族や医師と連携を図り、十分な情報交換を行っている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化した場合や終末期に向けた指針を説明し、ご本人・ご家族の意向を確認している。また本人の状態変化になるべく早く対応し、ご家族、協力医院、管理者等が話し合う機会を持ち、ご家族、本人の思いを第一に考え対応している。	入居契約の段階で「重度化した場合における対応に係る指針」に基づいて家族に説明し、書面で確認している。看取りについては「看取りに関する指針」に基づいて医師と家族の話し合いを基本に職員も同席し、確認している。希望があれば看取りも受け入れ可能である。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生に備えてマニュアルを作成、職員全員が意識を持って対応している。又、施設内にAEDを設置しており、心肺蘇生などの訓練を定期的実施している。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月火元責任者会議を実施し、責任者を中心に災害時のマニュアルを職員一同理解し、年に2回の避難訓練の際も地域の方の協力を得ながら実施している。夜間を想定した避難訓練も行っている。	毎月、火元責任者会議を開いて防災対策について話し合っている。年2回、消防署の立会協力と近隣住民の参加で、日中と夜間の火災を想定した災害対策訓練を実施している。AEDが設置しており、救急救命訓練を実施している。	参集した地域住民の役割分担、地震への備え、避難所の確保、非常時備品について検討中とのことなので、早急に体制整備が完了することを期待したい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格、尊厳を守り、プライバシーを尊重する声掛けを職員一同、心がけて対応している。	呼びかけは名前や苗字に「さん」付けを基本としている。言葉の端々で馴れ合いによる言葉遣いにならないように配慮し、気になる言葉かけがある時は職員同士でも注意し合うようにしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションの中で、ご本人の思いや希望を把握し、自己決定できるようケアしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせ希望に応じられるよう努力している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の希望に応じながら美容室へ同行介助したり、入浴後にカーラーで髪をセットするなど、都度対応している。		

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事の時間が楽しい時間となるよう、同じテーブルに職員が同席し会話を提供している。また、片付けや食器拭きなど、できる範囲で手伝っていただいている。</p>	<p>食事は厨房で全ユニット分調理されているが、簡単な調理、盛り付け、おしぼりたたみなど、利用者の生活歴を活かしながら一緒に行っている。利用者の希望を聞きながら、各ユニットで外食などに出かけたり、好みの献立を取り入れて食事が楽しめるように工夫している。</p>	
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>個々の食事量、水分量を把握し、身体状況に合わせた食事形態(キザミ、とろみなど)で提供している。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後、個々の状態に合わせて、歯ブラシやうがいを行い、口腔ケアをしている。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>各居室にトイレが設置しているため、自立している方は全て把握できているわけではないが、トイレ同行の方は都度トイレに座っていただいたり、少しでもトイレで排泄できるよう支援している。</p>	<p>排泄の記録をして各利用者のパターンを把握し、声かけやトイレ誘導を行い、可能な限り排泄用品の利用を控えてトイレで排泄できるように支援している。パターンを把握して声かけすることで、おむつから布パンツに移行した利用者もいる。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>個々の便の状態を把握し、便秘予防のためハビリ体操で身体を動かしたり、バナナヨーグルトを提供するなど、日々便秘予防に取り組んでいる。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている</p>	<p>一人一人がゆっくり満足して入浴して頂けるようケアしている。入浴拒否がある方には、無理をせず個々に添った声掛けを実施している。</p>	<p>入浴は毎日可能であり、基本的には午後に入浴を行っている。各利用者が週2回入浴できるように配慮し、入浴を拒否する利用者にも入浴券を作成したり、時間を変えたり、職員が交代で声かけするなど工夫して清潔保持に努めている。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>リビングで寛いで頂いたり、毎日、個々に合ったりハビリを行って頂き、よく眠れるよう支援している。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>服薬時は、声を掛け合い、服薬支援をしており、職員全員が処方箋に目を通し用法を把握している。</p>		
48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>残存機能を維持して頂ける様、食器拭きやお絞りたたみなどお手伝いして頂いている。気分が優れない時は、無理強いをせず、手伝いがやりがいにつながるよう努めている。</p>		

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>希望に応じ、外食、外出、近隣への散歩など、支援している。花見ドライブや、外食ツアーを開催している。</p>	<p>利用者の意志を尊重しながら、移動販売車へ買い物に出かけたり、天気の良い日は近隣への散歩、庭やベランダでの外気浴を行っている。季節に応じて畑作りを見学したり花壇の花に水やりを行うなど、楽しみながら外気に触れる機会を工夫している。冬季も受診などで外出する機会が多くなっている。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご本人の意向やご家族の了解の元、買物の支援をしている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望があれば電話をかけるなどの支援をしている。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節にあった壁紙作りを入居者のみなさんと一緒に作成し、記念写真を張るなどしている。</p>	<p>改築型の事業所であるが、手摺やスロープなど利用者が過ごしやすくした造りで、カラオケや各種イベントなどが楽しめる大きなホール設備も充実している。紅葉やすずきなどをさり気なく飾り付け、室内でも季節感が感じられるように工夫がなされている。ソファや食卓椅子など利用者は好きな場所でゆったりと過ごしている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>気の合った入居者同士が居室でお話されている時などは、お茶を提供しながら話が弾むよう工夫している。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>馴染みの家具や写真等を飾り、使い慣れた物で居心地のよい空間で過ごして頂けるよう、入居前にご家族に説明しご協力を頂いている。</p>	<p>ユニットにより洗面所とトイレ設備があり、各居室でゆったり利用できるようなになっている。利用開始時には馴染みの物を持って来てもらうように声かけし、本人が居心地よく過ごせるように配慮している。使い慣れた鏡台や鏡、タンスや収納ケースなど個々に応じた好みの物が配置され、落ち着いて過ごせる居室になっている。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>車椅子の自走訓練や手摺りをつたいながら歩行訓練をしている。個々の身体状況を都度アセスメントした上で、安全面に配慮し、必要に応じた手摺りの設置などをおこなっている。</p>		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000184		
法人名	株式会社 尚進		
事業所名	グループホーム ふきのとう		
所在地	北海道小樽市桜1丁目27番53号		
自己評価作成日	平成23年9月5日	評価結果市町村受理日	平成23年11月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「第1ユニット」に同じ

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172000184&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年10月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

. サービスの成果に関する項目(第2ユニット アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	現在、事業所の理念はあるが、ユニット独自の理念を職員で作成中で、その理念をもとに実践につなげて行けるよう話し合っている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	避難訓練やふきのとう夏祭りに地域の方を招待し、交流を深めている。また、近隣の小中学校の様々な催しや町内で行われる敬老会など参加させて頂いている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、認知症に方に対してのケア方法を説明したり、質疑応答を受け参考にして頂いている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月に1度開催され、民生委員、ご家族、地域包括支援センターの方に出席して頂いている。行事や事業所の取組みを報告し、意見を頂き、サービスの向上に活かしている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターの方に出席して頂いている。また市の担当者には、わからないこと等があれば、その都度相談している。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の方が安全で自由な暮らしができるよう、日々のケアの中で、身体拘束のないケアを常に意識し、毎回カンファレンスの際に話し合い、取り組んでいる。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者の方への言葉使いなどには常にミーティングの中で話し合い、確認を行っている。また、内部研修では虐待について勉強し、尊厳を守るよう努めている。		

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、成年後見制度について、外部研修に参加する機会は少なかったが、入居者の方で実際に後見制度を活用されている方もおり、内部研修を行い理解を深めていけるよう取り組んでいる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはご家族、本人に重要事項説明書等を丁寧に説明し、質問等を受け同意を得ている。身体状況の変化でやむを得ず契約解除に至る場合も、ご家族と十分話し合い納得された上でやっている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、ご家族の方には、意見・要望等を何でも話していただける雰囲気作りに努めている。ご家族からの意見や要望は、ミーティングやカンファレンスで話し合い反映させている。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度のミーティングでは、事業所所長も参加しており、ユニットでの取組みや提案を聞いている。また、年に数回の懇親会を開催し、職員同士の意見交換を行っている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人一人の職員の持ち味が発揮できるよう、職場環境を整えるよう努めている。また資格取得での手当、及び役職手当等の昇給など、職員のモチベーションがあがるような就業環境を作っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を実施したり、職員が希望する外部研修にはできるだけ参加できるよう配慮している。様々な研修会で勉強してきたことをミーティングにて発表し、職員が共有できるよう努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小樽市グループホーム協議会主催の相互訪問研修では、月に1度、他のグループホームへ行き、意見交換等で交流を深めユニットのケアの向上に反映させている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>利用開始前には必ず本人と面談し、利用者の希望や心身状態、想いを伺いながら、安心して入居して頂ける様、コミュニケーションを図っている。</p>			
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>見学や面談の際に、ご家族から困っている事や不安な事、要望等を伺いながら、わかりやすく説明し安心して頂ける様に努めている。</p>			
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>事前に利用者・ご家族から聞いていた情報を元に、支援しなければならないことを見極め、アセスメントを行い、ケアプランに反映させている。</p>			
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>職員は、利用者と暮らすパートナーとして、個々のこだわりや価値観など、本人の思いを共感し、共に支え合える関係作りに努めている。</p>			
19		<p>本人を共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>利用者の様子を月1回発行しているふきのとう通信や電話にてご家族に報告している。又、主治医からの説明等がある時は、ご家族に連絡し同席させて頂く等、共に本人を支えて行く関係作りに努めている。</p>			
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>入居する前からのかかりつけ医に、入居後も通院したり、利用者を取り巻く人や支えてきた人たちとの関係が途切れないよう、協力を頂きながら支援している。</p>			
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>リビングでのリハビリ体操やお手伝い、ユニット行事等、利用者同士と一緒に楽しみ、スタッフも会話に入る等して触れ合える様に努めている。</p>			

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方のご家族とは、ほとんど連絡等をとることはないが、サービス利用中に培った関係を大切に、いつでも相談等を受け付けられるよう対応している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中から、想いや希望を把握していく様努めている。その希望が困難な時にも、本人の思いに寄り添い受容しながらケアしている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から、生活歴などを聞きながら情報を収集しケアプランに反映させている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の身体状況や日々の生活を細かく記録し、職員全員が状況を把握できるよう努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度、事例検討を行い、カンファレンスを行っている。介護計画書の作成時は計画作成担当者を中心にユニット全体で話し合い意見を反映させている。ご家族の面会時に伺った希望等は、ケアに反映させるよう努めている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子やケアの実践等を個人記録に記入、身体状況を健康チェック票に記録し、職員間で情報を共有し、ケアの実践や介護計画見直しをおこなっている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院、美容室や買物、町内会への外出など、利用者の希望になるべく応えるよう対応している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加、近隣小中学校との交流、町内会の行事、入居前から行っていた会の会合等の参加で、暮らしの活性化につながるよう支援している。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、ご家族と相談しながら、入居前からのかかりつけ医、又は新たな医療との関わりを支援している。		

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体状況の変化が見られた場合は、かかりつけ医又はかかりつけ病院の看護師と連携を図り、適切な受診を受けられるよう支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、医療機関と情報交換や相談を、家族も含め行っている。又、日頃からかかりつけ医と常に相談等ができる関係作りに努めている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針について、契約時にご家族へ説明を行っている。実際に終末期になった方には、ご本人、ご家族の思いを受け入れながら、主治医と相談し合い、対応している。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故や急変に備えてマニュアルを作成し、職員一同把握・理解に努め意識をもって取り組んでいる。又施設内にはAEDが設置しており、年2回救命救急の講習を受けAEDの使用方法を習得している。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員は災害対応マニュアルを理解し、年に2回、消防署、地域の方に協力を頂き、避難訓練を行っている。夜間を想定しての訓練や、毎月1回、火元責任者会議を行い防災意識を高めている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の尊厳を守り、声掛け等に配慮するよう職員一同心がけており、ミーティング時には常に確認を行っている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から、利用者が自己決定できるような声掛けを行い、本人の思いや希望等を普段のコミュニケーションの中で把握するよう努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務中心とならないように、日頃から身体状況を見て、常に利用者のペースに合わせたケアを支援するように心がけている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の身体状況に合わせて、職員と一緒に衣料店に行きご自分で選んでもらったり、美容室に行くなどの支援をしている。外出困難な方は訪問美容で対応している。		

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者の身体状況に合わせた食事形態で提供し、職員も同じテーブルを囲み楽しい食事になるよう声掛けしている。食後は職員と一緒に片付けたり食器拭きをしてもらうなど出来ることをしていただいている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事量・水分量を記録し把握している。食事量が少なく、栄養量が低下している方には、主治医に相談し栄養補助食品などで補っていただいている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合わせた口腔ケアを行っている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄間隔や習慣を把握し、トイレ誘導するなどして、なるべくオムツ対応にならないよう支援している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、牛乳を飲んで頂いたり果物を提供するなど工夫している。個々の排便状態を常に把握し、主治医に相談しながら下剤等で便秘予防に取り組んでいる。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回、体調に合わせて入浴していただいている。体調不良で入浴できない方には、清拭対応するなどして清潔を保持していただいている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の身体状況に合わせて休息していただいている。眠れない方には、職員とお話して過ごすなどの対応をしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬には細心の注意を払い、処方箋をファイルに保管し経過観察が必要となる薬は健康チェック表に記載し経過観察を行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残存能力を維持していただけるよう、おしぼり畳み、食器拭きなどを楽しみながら行っていただけるよう努めている。入居前からの生活習慣を継続して提供できるよう支援している。		

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の状況に応じて、買い物や外出をし、要望に応じて外食や近隣の公園に散歩するなど、出来る限り要望に応えられるよう支援している。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の力に応じて、外出の際にご自分で支払いをして頂いている。移動スーパーにも定期的に買い物に行き、小遣い帳をつけるなどの支援をしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族が遠方に住まわれている方には、定期的にご家族に電話でお話していただけるよう支援している。要望に合わせて自由にやり取りできるよう支援している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と職員が共同で作業し、季節に合わせた壁紙を作り飾っている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで、テレビやカラオケ、DVDを観賞したりして、思い思いの時間を過ごせる空間作りに努めている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、馴染みのある家具や飾り物を持ち込んでいただくようお願いしている。また、ご家族の写真を飾ったりして居心地よく過ごしていただけるよう努めている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置等、安全で自立した生活を送っていただけるよう工夫している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000184		
法人名	株式会社 尚進		
事業所名	グループホーム ふきのとう		
所在地	北海道小樽市桜1丁目27番53号		
自己評価作成日	平成23年8月25日	評価結果市町村受理日	平成23年11月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「第1ユニット」に同じ

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172000184&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年10月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

. サービスの成果に関する項目(第3ユニット アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第3ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で理念を理解し、ケアを行っている。また、ユニットの特色に合わせ独自のケア理念を掲げ、皆でそれを意識しながらサービスの向上を図っている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年行われている夏祭りに地域の方にもたくさん参加していただいている。また、近隣の中学校の文化祭に参加するなど、交流を図っている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や消防避難訓練などを通して、認知症の方への支援について理解していただいている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を行い、民生委員、ご家族、地域包括支援センターの方に出席していただいている。イベントやふきのとうの取組みを報告し、意見をいただいている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には地域包括支援センターの方に参加していただいている。又困難なことがあれば、市の担当者に相談し指導いただいている。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	電動ベッドを使用している方には必要最低限のサイドレールはしているが、身体拘束につながらないよう、常に意識している。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者への言葉使いなど、パートナー一同常に意識している。また、ミーティング、カンファレンスにて不適切なケアが行われていないか確認し話し合っている。		

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第3ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修にて成年後見制度について学んでいるが、まだユニットでの勉強会には取り上げることができていない。今後、勉強会で取り上げる必要がある。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、管理者より重要事項説明書を丁寧に説明し、ご家族からの要望や不安な点を聞きながら1つ1つ説明し、納得を得るよう努めている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時など、意見や要望を何でも話して頂ける様な雰囲気作りに努めている。また、意見、要望、苦情等があればユニットに回覧し職員間で話し合っている。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行われるミーティングに事業所所長が参加しており、意見や提案を言える場がある。また年に数回、懇親会を開き、職員同士の意見交換の場となっている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスを作成し、各役職手当等を設けており職員のモチベーションを高めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や社内研修に参加して、常に勉強しながら向上心を高めている。また、入社後3ヶ月目に研修を行い、認知症ケアについてより理解を深めてもらい、実践につなげてもらっている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小樽市グループホーム協議会主催の相互訪問研修に参加している。他グループホームに行き、知識・技術の習得をしながら意見交換を行っている。訪問後はミーティングにて発表し、参考になったケア等を取り入れて行けるようサービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第3ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階で、信頼関係を作るためにコミュニケーションを図りながら利用者の要望を聞き安心感をもってもらうよう心がけている。会話の困難な方には顔色や動きなどを伺いながら対応している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時にご家族に不安なことや要望等を伺いながら、1つ1つ説明した上で安心していただいている。またご家族来訪時には様子を伝え、信頼関係を築いていけるよう支援している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、ご本人より話を聞きながら、日常生活においてご自分で出来ることを行っていけるようアセスメントを行い、カンファレンスし、ケアにつなげている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の利用者の生活リズムを把握しながら喜怒哀楽を共感し、共に支え合う人間関係を築けるよう努めている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の意向を聞きご家族に伝え、ご家族の協力を得ている。また、毎月ふきのとう通信にて近況報告を行い、利用者の様子を知っていただいている。遠方のご家族と葉書のやり取りをする支援も行っている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居の際は、本人の馴染みの家具や食器を持ち込んで頂ける様お願いしている。また、ご家族や知人が来訪した際には、居室にてゆっくりと過ごしていただけるよう対応している。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のトラブルを未然に防いだり、孤立しないように見守りを行っている。利用者同士の関わりを支援するため、ユニット内でレクリエーションを行い、皆が楽しめるよう取り組んでいる。		

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第3ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後、入院されている病院へ面会に行くことはあるが、ご家族と会う機会はない。契約終了の際は、何か相談があればいつでも連絡を頂くよう伝えている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、ご家族からの要望・意向を聞きながら、カンファレンスを行い、できる限りその想いに添ったケアプランを作成している。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報や生活歴を参考に、その人らしい暮らしに近づけるようなケアを行えるよう、アセスメント・カンファレンスを行いケアプランを作成している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の身体状況を見ながら、その人に合った日常の過ごし方等の把握に努め、本人の持っている力を維持できるようなケアを行っている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	安心して暮らしていただくために、主治医と連携をとりユニットでカンファレンスを行い現状に合わせたケアプランの作成を行っている。ご家族の来訪時等には要望や意見を伺いながらそれを参考にしているが、まだ十分とはいえない。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づいたケアを日々おこない個人記録に記載している。本人の身体状況に変化があった場合は、カンファレンスし、ケアプラン変更を行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人の心身の状況に応じ、本人に合わせた対応をするよう努めている。歌が好きな方を誘いカラオケを実施したり、その時々合わせたレクリエーションを実施している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の中学校の学校祭や、地域で開かれる音楽会に参加するなど、地域の一員として暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、ご家族と相談し、入居前のかかりつけ医に継続して受診できるよう支援したり、新たな医療機関にかかる場合も、連携を図り対応している。主治医には日々の様子を詳しく報告し適切な処置が受けられるよう支援している。		

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第3ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者に何らかの身体変化が見られた場合は、かかりつけ医やかかりつけ医院の看護師と連携を図り往診又は受診等の対応をしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院をした際には、長期入院にならないよう、医療関係者、ご家族と情報交換を行いながら、退院に向けての話し合いを医療関係者、ご家族と行っている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の指針について、ご家族に説明を行っている。また、その状況に至った場合は再度話し合いを行い早い段階からご家族に、主治医を含め話し合いの機会を作っている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は急変時に、できる範囲で初期対応が出来るよう、定期的に応急処置の訓練を行っている。また、館内にはAEDが設置されており、消防隊の協力を得ながら、救命救急の訓練を受けている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協体制度を築いている	年に2回、避難訓練を実施している。その際は消防署、地域住民の方、ご家族に協力を頂きながら、夜間を想定した訓練も実施されている。又毎月火元責任者会議を開催し防災意識を高めている。		
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の性格等を尊重しながら、職員は意識して声掛け等を行っている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の方から希望等が合った場合は、その方が自己決定できるような声掛けをするよう心がけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	まだ足りない部分もあるが、利用者一人一人についてミーティングを行い、利用者の希望に沿ってケアが出来るよう努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問カットにて散髪を行い、髭剃りなどでは出来る方には自分で行ってもらいながら身だしなみについて支援している。		

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第3ユニット)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の方の好みに合わせられるよう工夫している。その方の持っている力に合わせ、準備や片付けに参加していただいている。			
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量については毎日個人記録に記録し、職員全員が把握できるようにしている。食欲低下や、食事量の少ない方には、医師に相談し栄養補助食品を摂取してもらっている。			
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の状況に合わせて、歯磨き、うがいをおこなっている。			
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人一人の排泄状況を記録し、排泄の間隔などについてアセスメントし、その方に合わせた誘導などを行っている。失禁等がある方にも、トイレで排泄していただくよう支援している。			
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため、毎身体操や運動を行ったり牛乳などを飲んでいただいている。又、排便状況を記録し、医師から処方されている下剤の服用等で排便コントロールを行っている。			
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その方々の身体状況に合わせて対応しており、状況によっては清拭対応している。時間を希望される方は少ないが、なるべく希望に沿えるよう努めている。			
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後にテレビを見たり会話をしたりと、個々の状況に合わせて休息していただいている。			
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は、3度の確認など細心の注意をして対応している。薬の変更等があった場合には職員全員が処方箋を確認して理解している。			
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ユニット内でのゲーム、映画鑑賞やホールでのカラオケなどを行い、個々の希望に沿えるよう支援している。			

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第3ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人、ご家族の要望を伺いながら、外出、外食、近隣の公園への散歩、町内で催されるイベントになるべく多く参加できる機会を設けている。ご家族の支援のもと、行きつけの理髪店に行っている方もいる。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお金を管理している方は少い。認知症の重度化に伴い、そのような場面を作ることが難しいが、できる方には行っていただけるよう支援していく。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方に住まれているご家族に葉書を書く支援を行っている。ご本人からの要望があればいつでも電話等のやりとりができる体制を整えている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除を行い、整理整頓に気をつけている。また、写真を飾ったり、その季節に合った壁のディスプレイなども工夫している。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでは、利用者それぞれが自由に時間を過ごせるよう、寛げる空間を提供している。居室で休むのもご本人が休みたい時に自由に出入りしていただいている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族にも協力を得ながら、居室内に写真を貼ったり、本人の身近な物(神棚等)を置くなど、落ち着ける環境作りを心がけている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に配慮した上で、利用者一人一人が出来ることを行っていたいでいる。茶碗拭きや自分で洗濯物をたたみタンスにしまうなど手伝っていたいでいる。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム ふきのとう 本館

作成日：平成 23年 10月 27日

市町村受理日：平成 23年 11月 9日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	参集した地域住民の役割分担、地震の備え、避難所の確保、非常時備品について検討中との事なので、早急に体制整備が完了する事。	備品を10月中に揃えて保管場所も決める。	・必要な備品(オムツや尿取りパットも含む)を火元責任者会議で決めたので、購入を始めている。 ・保管場所もほぼ決定している。	1ヶ月
2	23	本人の希望・意向の把握の手掛かりになる過去経歴の情報は豊富に持っているが、更に記録をして、その蓄積と共有を図る事を期待したい。	日常生活に生活暦の話題を提供し、その時に交わされた会話等を介護記録や支援経過に記録する。	・ミーティングにて各利用者の方の生活暦を再確認する。 ・日常の会話、イベント等で、生活暦の話題を組み込んでいく。	3ヶ月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。